

C-6-6 環境（地下水汚染・検査）

意見書 No	内 容
162	<p>我が家は井戸水を生活水と利用している。廃棄物処分場内の断層帯の高低差は 30m であり、見解書によると水の流れる方向は逆方向とのことであるが考えられない？</p> <hr/> <p>皆様には多大なる御心配をお掛けしております、大変申し訳御座いません。</p> <p>御質問につきましては、先ず地下水がそもそも汚染されないということが最も肝要なことかと考えます。</p> <p>そのため、本計画施設では最大の安全を追及して相互にバックアップ、フェイルソフト(例えば航空機が片方のエンジンだけでも飛行できるようにする設計思想)の考え方による遮水構造としています。これは、高密度ポリエチレン(HDPE)シートとベントナイト混合土の組み合わせによる二重構造を採用することで成り立っています。</p> <p>高密度ポリエチレンシート (HDPE シート) は、極めて遮水性が高く、丈夫であるとともに弾力性があり「たわみ」や伸びに追従できるので外力に対応でき、破損の心配がありません。</p> <p>ベントナイト混合土は、HDPE シートの下に膨潤状態で密着して置かれ、万一シート破損が生じた場合には、この膨潤状態のベントナイト混合土に浸出水が接触しベントナイトが更に膨潤しシートの破断面を塞ぐことでHDPE シートをバックアップします。</p> <p>このベントナイト混合土の透水係数は 10^{-7}cm/s とし、これは欧州で採用されている基準と同等で、日本の基準よりも 10 倍厳しいものとしています。</p> <p>そして、ベントナイト混合土には、ろ過作用とイオン交換作用があり、有害物質は通過することができません。</p> <p>また、遮水工の下には地下水集配水管を設置しており、万一遮水工を通過した浸出水を、地下から湧き出る地下水とともに集水し浸出水処理施設に導き処理しますので、地下への浸透や他の地下水脈への混入、勿論河川への流入などがないような設計となっております。</p> <p>さて、御質問の井戸がどこの井戸かは文面からは読み取れないのですが、背山地区ないし北洞地区かと推察致します。</p> <p>専門業者による調査（生活環境影響調査）からは、計画地においては、地下水は浅部の透水性がよいと判断される盛土および風化帯を流れるものと判断されており、地流向流速測定や地形状況および地下水の水頭（自由水）の高低差から計画地場内方向に流下するとの結果が得られております。また、深部の断層間については地下水の流動は非常に遅いものと想定されており、流向流速測定によれば、流向が確認された箇所においては計画地場内方向へ流下し、背山地区や北洞地区へ地下水が流動することはないとの結果が得られております。</p> <p>従いまして、汚染された地下水が背山地区や北洞地区に流入するようなことはありません。</p> <p>なお、皆様にはより御安心していただけますよう、井戸の定期的水質検査実施について、今後の環境保全協定締結に向けたお話し合いの中で協議させて頂きたくお願いを申し上げます。</p>

地元背山地区には水道がありません
山の水を飲んでます。今後心配です。

皆様には多大なる御心配をお掛けしております、大変申し訳御座いません。

御質問につきましては、先ず地下水がそもそも汚染されないということが最も肝要なことかと考えます

そのため、本計画施設では最大の安全を追及して相互にバックアップ、フェイルソフト(例えば航空機が片方のエンジンだけでも飛行できるようにする設計思想)の考え方による遮水構造としています。これは、高密度ポリエチレン(HDPE)シートとベントナイト混合土の組み合わせによる二重構造を採用することで成り立っています。

高密度ポリエチレンシート(HDPEシート)は、極めて遮水性が高く、丈夫であるとともに弾力性があり「たわみ」や伸びに追従できるので外力に対応でき、破損の心配がありません。

ベントナイト混合土は、HDPEシートの下に膨潤状態で密着して置かれ、万一シート破損が生じた場合には、この膨潤状態のベントナイト混合土に浸出水が接触しベントナイトが更に膨潤しシート破断面を塞ぐことでHDPEシートをバックアップします。

このベントナイト混合土の透水係数は 10^{-7} cm/sとし、これは欧州で採用されている基準と同等で、日本の基準よりも10倍厳しいものとしています。

そして、ベントナイト混合土にはろ過作用とイオン交換作用があり、有害物質は通過することができません。

また、遮水工の下には地下水集配水管を設置しており、万が一遮水工を通過した浸出水を、地下から湧き出る地下水とともに集水し浸出水処理施設に導き処理しますので、地下への浸透や他の地下水脈への混入、勿論河川への流入などがないような設計となっております。

そして、専門業者による調査(生活環境影響調査)からは、計画地においては、地下水は浅部の透水性がよいと判断される盛土および風化帯を流れるものと判断されており、地流向流速測定や地形状況および地下水の水頭(自由水)の高低差から計画地場内方向に流下するとの結果が得られております。また、深部の断層間については地下水の流動は非常に遅いものと想定されており、流向流速測定によれば、流向が確認された箇所においては計画地場内方向へ流下し、背山地区や北洞地区へ地下水が流動することはないとの結果が得られております。

従いまして、汚染された地下水が背山地区や北洞地区に流入するようなことはありません。

そのため、現在使用している湧き水を引き続き安心して使用して頂くことが可能です。

なお、皆様にはより御安心していただけますよう、井戸の定期的水質検査実施について、今後の環境保全協定締結に向けたお話し合いの中で協議させて頂きたくお願いを申し上げます。